

運転手のシフト作成を自動化



利用料100万円も「運転手の待遇改善」

コンピュ一向けの運行管理は複雑で、自動化のメリットは大きい

事故減少狙う
効率化によって生じる時間は、運行管理者の運転手のコミュニケーションに充てる。管理者トラックに搭載した上で、イブレコーダーの映像などから運転のクセやトラブルを確認している。険な傾向のある運転を

事故減少狙う

た。自動化によって人的なミスを減らす効果期待する。

スが起き、シフトが出後に従業員同士で融通りといったケースもあ

膨大になる。そのため作業では丸3日かかりました。

間もあわあわだ。運転は3交代制で回して、シフトのペターンが複雑だ。

ることに加え、巡回するエリアによって店舗間の間隔が異なり、所要時間も

數時間

期の売上高は451億円の見込みで、利益は非公開。25年に売上高を800億円に高める目標を掲げている。「冷凍」「チルド」「常温」などカテゴリー別での効率的な管理・配送を強みとしてアピールし、顧客企業を増やす。ドライバーの確保が成長に欠かせないとみて、待遇改善を急ぐ。

の物流拠点にも広げる方針だ。

り重要なっている(同社)と判断した。シフト作成の自動化は今後、他

ライバー不足が深刻で、
「一度採用した従業員を
どう辞めさせないかがよ

の利用料は年間約100万円と決して安くはない。ただ物流業界ではド

ドライバーの不安解消に
努める。

また業務に関する疑問
点や待遇面での不満を聞
き取る体制を充実させ、

勤務表作成 3日→数時間

食品向けの物流を手がけるシモハナ物流（広島県坂町）は、トラック運転手の勤務表を5月分からパソコンのソフトで自動動作成する。これまで各拠点の運行管理者が手作業で3日間かけていた業務を数時間に短縮する。浮いた時間を運転手とのコミュニケーションに充てる。ドライバー不足が深刻になるなか、現場の待遇改善につなげて定着率を高める。

JRグループの鉄道情報システム（東京・渋谷）

シモハナ物流 自動化ソフト導入

従業員の希望する休日、勤務時間帯、迎勤の上限などの条件を入力すると、1分で1カ月分のおよそのシフトができる。運行管理者が微調整を加え、トータル数時間で完全な勤務表ができる。

コンビニ配送にシモハナ物流が食品などを仕分けして出荷する拠点は全国に50カ所ある。

同社は飲食店向けの配

送も手がけているが、コンビニ向けの運行管理が最も複雑だという。1店舗につき1日3回配達する。運行管理者が毎月のシフトを作っている。まずコンビニエンスストア大手で、向ける配送を手がける広島県、岡山県、徳島県、兵庫県の4拠点で導入する。4拠点のドライバー数は計240人。

について指導する回数を増やし、事故の減少につなげる。